０４／１１／１４　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：喜びを奪われないために
聖書箇所：ヤコブの手紙　１章９－１１節

信仰生活には様々な試練があります。もしかすると皆さんも不当な扱いを受けておられるかもしれません。信仰ゆえに非難を受けたり、あなどられたり、蔑まれたり、あの人は変わっていると言われたりすること、そのようなことを経験されたかもしれません。またされているかもしれません。信仰ゆえに家族の縁を切ると言われたり、仲間はずれ、村八分など、いろいろな孤独を経験しておられるかもしれません。一生懸命主を愛し、主に従っているのに、病気になったりケガをしたり、事故や事件があったり、いろいろな悲しみがあり、ある人は人間関係に悩んでいたり、誤解で悩んだり、また仕事を失ってどうしようかと当惑している、どうしてこのようなことが起こるのかと考え込みます。そのような疑問にヤコブは答えを与えてくれたわけです。すべての試練は私たちのためであると教えてくれました。私たちの信仰の成長のために神が備えてくれたのだと。だから、その試練の目的をしっかり覚えて、神の約束に立って歩むようにと教え、同時に前回は、神の前に知恵を求めることが必要だと教えました。ヤコブが教えてくれた知恵というのは、すべてのことにおいて、すべての状況において、神のみこころに沿った選択をする能力、力だと言います。どのような状況の中でも神が喜ばれることが何かを考えて、それを選択して行くのです。このようなことのできる人が神の知恵をもった人だと教えました。そのために私たちは神に知恵を求め続けて行くことが必要だと訴えたのです。もし、私たちが知恵を働かせないなら、試練は私たちを成長させないばかりか、私たちから喜びを奪って行く機会となってしまいます。ヤコブはそのことをよく知っていました。正直、私たちはいろいろな試練の中でいつも喜んでいることができるかというと、それは難しいことです。ある人はその喜びを失う瞬間が短いかもしれない、ある人は長いかもしれない、しかし、共通していることは、いろいろなことが私たちから喜びを奪っていってしまうということです。頭でわかっていても実際に試練に襲われると、神に感謝しますとはなかなか言えないのです。感謝の代わりにどうして？と疑問が起こります。試練が喜びを奪う可能性があるのです。もちろん、そのようなことはあってはならないので、ヤコブは喜びを奪われないためにどうするのかを教えるのです。

今日は９－１１節を見るのですが、ここでヤコブは私たちから喜びを奪う危険をはらんだ大きなことを教えています。

☆喜びを奪う危険のあるもの

１．貧しさ

９節に**「貧しい境遇にある兄弟は、」**とありますが、喜びを奪う試練、貧困、貧しさが私たちから喜びを奪ってしまう危険があるのです。貧しさはすばらしい祝福なのですが、そのようには思えない、気をつけていないと貧しさが私たちから喜びを奪ってしまう可能性があるのです。**「貧しい境遇」**とは、身分が低いこと、４：６では謙遜と訳されていることばですが、ときに比喩的に使われたりします。ここでヤコブが言っていることは金銭的な貧しさです。なぜなら、その後に**「自分の高い身分を誇りとしなさい。」**とあり、貧しさと対比して富んでいる人のことを言っているからです。物質的なこと、富、お金のことを言っているのです。そして、それと関連した地位のことです。確かに、初代教会は貧しかったのです。ですから新約聖書を見ると、教会では皆の必要を補い合っていたことが記されていますし、教会が必要のある別の教会に物資を送ったりしていることを見ます。生まれながらに貧しい人もいたでしょうし、信仰による様々な迫害によって富を奪われたり、住む所を追われたりしました。どのような理由であっても、結果的に貧しい境遇におかれた兄弟たちにヤコブは気をつけるように言います。貧しさがクリスチャンから喜びを奪う危険性があるからです。なぜそうなるのでしょう？やはり私たちはすぐに人と自分を比較するからです。なぜ私だけこんなに貧しいのか、なぜあの人はあのように恵まれているのかと、そのような思いを持ってしまいます。社会もそのように扱います。ヤコブ２章で「人をえこひいきする」ことが語られています。１－４節**「私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません。2 あなたがたの会堂に、金の指輪をはめ、立派な服装をした人がはいって来、またみすぼらしい服装をした貧しい人もはいって来たとします。:3 あなたがたが、りっぱな服装をした人に目を留めて、「あなたは、こちらの良い席におすわりなさい。」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこで立っていなさい。でなければ、私の足もとにすわりなさい。」と言うとすれば、:4 あなたがたは、自分たちの間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく者になったのではありませんか。」**、このようであるなら、貧しい状態にいる人々はなかなか喜べないのです。このような危険性をもったもの、貧しさの中にあって、ヤコブはどのようにすれば喜びを奪われることなく、喜んで感謝をもって生きて行けるの

か、その秘訣をここで教えるのです。

次に**「自分の高い身分を誇りとしなさい。」**とあります。ヤコブは神の前に誇れるものにこそ目を留めなければいけないと教えます。**「高い身分」**とは社会的な評価ではなく神の評価です。ヘブル１０：３４に**「あなたがたは、捕えられている人々を思いやり、また、もっとすぐれた、いつまでも残る財産を持っていることを知っていたので、自分の財産が奪われても、喜んで忍びました。」**とありますが、まさにヤコブが教えていることです。この人々は信仰ゆえに地上での富を失うことになってしまったのです。しかし、驚くべきことに彼らはそれでも喜んでいたというのです。なぜでしょう？どんな地上の宝よりも**「もっとすぐれた、いつまでも残る財産をもっていた」**からです。これがカギです。ヤコブが言いたいことは、貧しい境遇の中にいるとある人は劣等感をもつかもしれない、自分はこの社会にあって余り価値がないと思うかもしれない、けれどそれは間違っている、あなたは神の前でとても価値があると言うのです。ヤコブは「あなたはどんなにすばらしい祝福を神からいただいたのか、いつまでも残る財産を得ているのだ」ということに彼らの目を向けさせようとしたのです。どんな地上の宝よりももっとすぐれた宝をもっている、すばらしい神からの祝福がある、それが「高い身分」である証拠だと言うのです。「すぐれた宝」、神からの祝福がどのようなものか、神が私たちクリスチャンに与えてくださったその祝福を見てみましょう。

１）神の子どもとされた。かつてはサタンの子どもとして生きていた私たちが、神の一方的な恵みによって救い出され、全能なる神の子どもとされたのです。神が私たちを愛してくださり、ご自分の子どもとしてくださったのです。

２）永遠のいのちが与えられた。私たちは死んでも生きるのです。家族が召されたとき、そこに淋しさはあっても喜べるのは召されたたましいがどこにあるのかを知っているからです。キリストのもとにあるからです。クリスチャンが召されたとき天に凱旋すると言います。地上の務めを終えて天に凱旋して行くとき天使たちが喜び歓声をあげて迎えてくれるのです。罪のからだから解放されて主にお会いできるもっとも喜ばしい瞬間です。そのような希望が与えられたのです。私たちは死んでも生きるという信仰をもって生きる者です。これは神が約束してくださったことです。イエスが十字架で死にそこからよみがえってこられたというその事実が、私たちに「あなたは死んでも生きる」ことを約束してくださったのです。天に凱旋するというのはクリスチャンにとって祝えることなのです。

３）神と交わりができる。いつでもどこでも神は私とともにいてくださるのです。私たちはこのお方と祈りによって語ることができるのです。

４）聖霊なる神が与えられた。聖霊の内在というすばらしいことがもたらされたのです。聖霊は私たちを慰めてくださり、助けてくださるのです。神は私たちの弱さを知って一番必要な助け手を備えてくださったのです。

５）イエスが私のためにとりなしてくださる。私たちはだれかに祈っているよと言われると励ましを受けますが、イエスが私のことを祈ってくださっているというのは大きな励ましです。

６）イエスが私を弁護してくださる。私たちは悲しいことに日々罪を犯します。そのときサタンは神の前で私たちを訴えるのです。そこでイエスは私たちのために何をしてくださるか、Ｉヨハネ２：１に**「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。」**とあり、わたしはこの罪のためにもうすでに代価を払いましたと私たちを弁護してくださると言うのです。

７）すばらしいほうびが約束されている。神から正しい評価がくだるのです。この世にあっては人はいろいろなことを言うかもしれない、しかし神は私たちの行ないではなく動機を見られ、正しく評価し正しく報いをくださるのです。だから私たちはイエスにお会いする日を期待しながら生きるのです。

このように私たちには神から多くの祝福が与えられています。金銭では買うことのできない祝福です。行ないでは得ることのできないものです。神は一方的な恵みによってこのような祝福をイエスを信じる私たちにくださったのです、例外なく。信仰歴の長さなど関係ありません。イエスを信じる一人ひとりにこの約束は与えられているのです。ヤコブが言いたいことは、あなたは貧しいかもしれないが、神の前には高価で尊いのだ、このような祝福をいただいていることを忘れてはいけないということです。だから、ヤコブは**「貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。」**と言ったのです。

地上に宝を積む努力ではなく天に宝を積みなさいとヤコブは言います。イエスに従うことで地上の宝を失うことがあったとしても、それは決して損をしたことにはならないのです。天に宝を積むことになるからです。しかもその宝はさびや虫がつかないもの、傷がついたり盗まれたりすることのないものです。しかし、もし私たちが地上の財産を保つためにイエスに逆らう選択をするなら、それは大きな損失です。永遠に残る宝を逃してしまうことになるからです。だからイエスはマタイ６：１９－２１でこのように語っておられます。**「自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、**

**また盗人が穴をあけて盗みます。:20 自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。:21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。」**。私たちの誇りは主から与えられた宝です。ヤコブは**「自分の高い身分を誇りとしなさい。」**と言いました。**「誇りとする」**というのは「自慢をする」ということです。９節のみことばは原文では**「誇りとしなさい」**ということばで始まるのです。ヤコブは**「誇りとする」**ことを強調したかったからそうしたのです。これは強い確信をもった心からの応答です。「私には誇りとするものがある」というのです。**「誇りとしなさい」**ということばは、パウロ書簡以外の新約聖書には、この１：９と４：１６にしか出てこないことばです。ヤコブ４：１６を見ると**「ところがこのとおり、あなたがたはむなしい誇りをもって高ぶっています。そのような高ぶりは、すべて悪いことです。」**とあり、この**「高ぶり」**ということばが同じことばなのです。１：９では自慢とか誇りとなっていて、４：１６では高ぶりとなっているのです。同じことばがこのように異なって訳されているのです。つまり、ヤコブは正しい態度と間違った態度を言っているのです。

私たちの日々の生活において、誇る価値のないもの、永遠に価値のないものを私たちが誇るとしたらそれは空しいことであり、主の前に間違っています。どのような境遇にあっても、誇るべきものをしっかりと誇っていることを神は喜ばれるからです。社会的地位や富を誇っても意味がないことなのです。貧しいからといって卑下することはないのです。私たちは神に愛されているし、すばらしい祝福が与えられているのです。誇るものがあるからそれをしっかり誇りなさいというのです。間違ったものを誇るならそれは罪になります。ヤコブは神から与えられたその高い身分を誇りなさいと、現在形で記しました。ずっとそのようにし続けなさいということです。あなたがこの地上を生きている間、ずっと誇っていなさいということです。

２．豊かさ

また、貧しさだけではありません。豊かさというのも実は危険なのです。１０節に**「富んでいる人は、自分が低くされることに誇りを持ちなさい。」**とあります。富んでいる人とはお金持ち、地位の高い人です。なぜお金に危険があるのでしょう？それは私たちが神ではなくお金に信頼を置いてしまうという危険性があるからです。Ｉテモテ６：１７でパウロはこのように言います。**「この世で富んでいる人たちに命じなさい。高ぶらないように。また、たよりにならない富に望みを置かないように。むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。」**と。私たちの問題は、信頼の置けるものに信頼を置かずに信頼の置けないものに信頼を置いてしまうということです。この世のものにいくら信頼を置いても、それはすぐに移り変わって行くものです。また、同じＩテモテ６：９－１０でこのように言います。**「金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。:10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。」**。間違った選択をしたゆえに非常に苦しい目にあったということです。それほどお金というのは間違った方向に人を惑わして行くものです。貯金通帳にたくさんお金があるから安心すると言っても、私たちが安心を置かなければいけないのは神です。私たちが信頼を置かなければいけないのはお金ではなく、すべてのことを支配しておられる神なのです。物がたくさんある中で何に頼って生きて行くのか、何に信頼を置くのか、知恵が必要なのです。知恵をもって私たちは正しい選択をして行かなければなりません。そこで富んでいる人たちに対してヤコブは**「自分が低くされることに誇りを持ちなさい。」**と言います。貧しい人には高くされることを、富んでいる人には低くされることを誇りなさいと。低くされるとは卑しくされることです。ヤコブが言うことは、富んでいる人は自分が持っている富、また、それゆえに得た社会的地位によって驕ってしまう危険性がある、だから、人々はそういうものであなたを見るけれど、あなた自身がしっかり目を留めなければいけないのは、人々が余り価値を払わないところ、すなわち、私たちの愛する主だということです。残念ながら、人々は私たちの主に対して私たちが払うような評価は払っていません。そのように主を扱っていません。人々はイエスを知る価値はないと思い、イエスは賞賛に値しないと思っています。ペテロはＩペテロ２：４で**「主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。」**と言っています。イエスは人には捨てられたと言います。人々はイエスを見てこの人には価値がないと判断したのです。この人を信じる価値はない、敬う価値はないと。大切だとするなら捨てることはないからです。ところがみことばは言います。人々からは捨てられたかもしれないが、神の前にこのイエスは尊い存在である、**「選ばれた、尊い、生ける石」**だと言うのです。イエス・キリストは生けるもの、いのちがあると、だから、信じる者にいのちを与えることができるのです。私たちは知っています。神も知っているのです。このイエスは人類にとっての唯一の希望であり信じる価値のあるお方だと。イザヤ書５３：３に**「彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。」**とあります。しかし、このようなお方が私たちにとっては最も尊ばれるべき救い主です。世の中の人たちはこのイエスに対して正しい評価をしないのです。イエスを卑しく見るの

です。だから、私たちがこの世の人々が求める富や地位でなくイエス・キリストを見て行くなら、人々が私たちを奇異に見たとしても、そこにこそ本当の価値があることをヤコブは私たちに教えるのです。ヤコブは貧しい人も富んでいる人も何に目を向けて、何をしっかり見据えて生きて行くべきかを教えるのです。富がないからと言って喜びを奪われないようにしなさい、与えられている神の祝福を覚えなさいと、富んでいるからと言ってその富に目を留めて神を忘れてはならない、人々はさげすんだけれど、その大切な主をしっかりと見てその主から与えられたほんとうの宝を見て生きるように、そうすることによってあなたは富によって喜びを奪われることはないと教えるのです。

人生とは非常にはかないものだとヤコブは教えてくれます。だからこそ私たちは知恵をもって賢い正しい判断をしなければいけないのです。１０節の後半に**「なぜなら、富んでいる人は、草の花のように過ぎ去って行くからです。」**、１１節**「太陽が熱風を伴って上って来ると、草を枯らしてしまいます。すると、その花は落ち、美しい姿は滅びます。同じように、富んでいる人も、働きの最中に消えて行くのです。」**と、人生とは草の花のようなものだ、太陽が熱風を伴って上って来るとそれはもう過ぎ去ってしまうと。この風とは南東の砂漠から吹いて来る風です。このときにヤコブは当時の人々がよく分かるたとえをもって話しているのです。南東から風が吹くと一瞬にして花は枯れてしまうのです。バークレーはこのように言っています。「その風はオーブンを開けたときに吹き出す熱気のように、パレスチナを焼き尽くす。１時間も吹けばその火のような熱によってあらゆる草木は一掃される」と。人生はそのようなものだと言うのです。あっという間に終わる、はかなく不安定なものだと。また、ヤコブは**「働きの最中に消えて行くのです。」**と言います。この「働き」ということばはルカ１３：２２で「旅」と訳されています。**「イエスは、町々村々を次々に教えながら通り、エルサレムへの旅を続けられた。」**と、この「旅」ということばが１１節で「働き」と訳されており、同じことばなのです。人生は花のように短いものだし、旅のようにいつか終わりが来ると言うのです。そこで、ヤコブはこう言いました。だから私たちは誇るべきものをしっかり誇っていかなければいけないと。富んでいる人はお金があるかもしれないけれど、そのような人生はあっという間に終わってしまう、だから、天に宝を積む者にならないといけないし、地上の一時的なものに目を留めて今日を生きて行くのではなくて、神から与えられた永遠に続くすばらしい宝をしっかり見て今日生きて行くことだとヤコブは教えてくれたのです。

貧しい人も富をもっている人もみんな神の前に平等だと言います。同じ祝福をいただいているからです。富を与えられた人はその富を神のためにどう用いて行くかという大きな責任があります。なぜなら、みな神から与えられているものだからです。しかし、富んでいても富んでいなくても私たちは主の前に平等です。神の前に同じように愛されている、同じ祝福をいただいている、だから、しっかりそれを見て生きて行くようにと。私たちが永遠に続くものに目を留めて歩んで行くなら、パウロが証したことが私たち自身の証となって行きます。パウロはピリピ４：１１－１２でこう言いました。**「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。:12 私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。」**と、どんなときでも満ち足りていると言うのです。この満足は物が与えてくれるものではありません。イエス・キリストだけが与えることのできるものです。だから、そこに目を向けていないと私たちはそれを得ることはないのです。私たちに必要なことは見るべきものをしっかり見ること、誇るべきものをしっかり誇って生きることです。そうするなら、神は満足をくださり、喜びが奪われることはないのです。そのように生きて行くことができ、そのように生きて行くようにと、この主の恵みを誇りながら生きなさい、今日も明日をくださるなら明日も生きて行きなさいと。そのように生きましょう。それが神が望んでおられることです。